

令和元年度 第2回坂東市地域公共交通会議 議事録

1. 日時

令和元年10月31日（木） 午後2時00分～午後4時20分

2. 場所

坂東市役所 3階大会議室

3. 会議内容

(1) 開会

(2) あいさつ

(3) 議事

①報告第1号 公共交通に関する市民アンケート調査結果について

②審議第1号 坂東市地域公共交通網形成計画の作成について

③審議第2号 直行坂東号の中間評価について

④審議第3号 市外デマンドタクシー実証運行の中間評価について

(4) その他

(5) 閉会

4. 出席者（順不同・敬称略）

○出席者 22名（うち代理出席5名） 別紙の通り

○欠席者 8名

○事務局 坂東市企画課 4名

○傍聴者：0名 随行者：1名（茨城県政策企画部交通局交通政策課）
オブザーバー：2名（筑波大学理工学群社会工学類学生）

5. 議事要旨

（1）報告第1号 公共交通に関する市民アンケート調査結果について
・公共交通に関する市民アンケート調査結果について報告した。

（2）審議第1号 坂東市地域公共交通網形成計画の作成について
・坂東市地域公共交通網形成計画の作成について説明した。
・坂東市地域公共交通網形成計画の作成について承認された。

（3）審議第2号 直行坂東号の中間評価について
・直行坂東号の中間評価について説明した。
・直行坂東号の来年度の運行について承認された。

（4）審議第3号 市外デマンドタクシー実証運行の中間評価について
・市外デマンドタクシー実証運行の中間評価について説明した。
・市外デマンドタクシー実証運行の期間延長について承認された。

（5）その他

・次回の会議は12月20日（金）午後2時から、坂東市役所3階大会議室での開催を予定している。

6. 協議内容

(1) 報告第1号 公共交通に関する市民アンケート調査結果について

- ・意見なし。

(2) 審議第1号 坂東市地域公共交通網形成計画の作成について

会長 : ・坂東市地域公共交通網形成計画の作成について説明があった。今回は現況と課題に重点を置いて説明があった。

- ・参考資料2にあるように、現状のデータや上位計画、アンケート結果を受けて課題を整理し、公共交通の役割や基本理念、目指すべき将来像を考え、基本方針を挙げた。そして基本方針に合った計画目標・数値目標を掲げた。

- ・どんなことでもいいので意見を出してほしい。

委員 : ・市の財政は限られているので、免許のない人や障がい者などの車に乗れない人が市内で移動できるようにすることに重点的に取り組んではどうか。

- ・また、都心とのアクセスに重点的に取り組んではどうか。TXのような坂東市から東京に1本で行ける交通手段があると良い。

- ・あれもこれもやろうとすると、何もできずに終わるのではないか。

- ・免許を返納するときにきたときにどうしようかと思っており、同じように考えている人がたくさんいると思う。免許返納した人に車がなくて困ったことを聞いてはどうか。

- ・コミュニティバス、広域バス、デマンド型乗合タクシーを全部良くしようとしても何もできないのではないか。まずは市内の移動手段の確保と東京とのアクセス手段の確保の2つに焦点を絞ってはどうか。

- ・マイカーが便利のため、自家用車で移動できる人は公共交通をどんなに便利にしても乗らないと思う。免許のない人等の自家用車で移動できない人を対象にした方が良くと思う。

会長 : ・財政的な面からも車に乗れない人の移動手段の確保と東京とのアクセス手段の確保に絞って取り組んではどうかという意見があったが、関連して意見はあるか。

委員 : ・平成18年からコミュニティバスが運行している。女性団体でもコミュニティバスが必要と声を挙げてきたが、実際運行すると乗らない。市民は自分で運転してドアツードアで移動する感覚が身についている。

- ・小学生は徒歩、中学生は自転車か徒歩、高校生はバス、自転車、徒歩で通学している。坂東市で目指すべき姿を「バス交通を軸とするまちづくり」としているが、子どもたちが大きくなったときに、市民に取り入れられるか疑問に思う。公共交通を理想的に充実させても利用につながらないのではないか。

- ・10年間の計画とのことだが、自分たちが10年後に公共交通を使うとも思わない。10年間の市の人口の推計を調べて提示してほしい。少子高齢化の状況も踏まえて計画について考えたい。

- ・坂東市は公共交通が不便な地域であり、鉄道を誘致しているが、少子高齢化の状況では厳しいと思う。
- ・坂東市から東京に行くには駅まで車で行かなくてはいけない。守谷駅行きのバスもあるが、交通の不便さが市の経済の発展も損ねているように思う。
- ・商店の客も後継者も少なくなっていて、守谷駅までの公共交通があれば違うという話も聞くので、どうにか解決したいと思う。
- ・「バス交通を軸とするまちづくり」とするかが議論のポイントの1つになる。なぜなら、鉄道駅があれば、鉄道駅を拠点に回るバスの利用が増えるが、鉄道駅の無い坂東市ではバス交通は難しい。

会長 : ・バス交通を軸とするまちづくりには無理があるのではないかという意見であった。

事務局 : ・人口に関して、20 ページに記載してある坂東市人口ビジョンで 2060 年までの人口推計を行っている。国の社人研の推計と市の将来展望に基づいた推計を行っている。

委員 : ・20 ページのグラフの補足説明をする。2040 年までに出生率を 2.07 に上げた場合が真ん中の線である。2040 年までに出生率を 2.07 に上げ、なおかつ毎年 100 人の人口流入がある場合一番上の線となる。何もしなければ一番下の線となり、10 年後の 2030 年には 47,000 人台と推計されている。

会長 : ・市の施策を進め、将来展望①や②の人口を目指すということである。

委員 : ・工業団地では他の市町村から人が来る。車でないと来られないため、人が集まらないという現状である。特に派遣の人は、交通手段があれば行けるのにないから行けない人が非常に多く、人手不足で困っている状況である。

・バスを増やせばいいという訳でなく、今後人口が減少していく現状で、バスの成り立つ状況ではないと思うが、工業団地においては、人口構成は変わらない。若い人が入り、高齢になればやめていくという人が入れ替わりながら継続していく人口構成である。人を確保しないと事業の拡大ができない。

・工業団地内でアンケートをとった。常総市からの通勤が多く、水海道駅からのバスを走らせてほしいという意見が出た。守谷駅からのバスという意見もあったが、最低限水海道から工業団地のバスが欲しい。朝の通勤時間帯の水海道駅から工業団地行きと、夕方の工業団地から水海道駅行きの 2 本で良い。

会長 : ・従業員の確保のため、常総市からの移動が多いので、交通手段を確保してほしいという意見であった。

委員代理 : ・バス交通を軸にするのは難しいという意見が出た一方で、工業団地ではバスが必要という意見が出た。一般住民にはデマンド型タクシーのようなドアツードアのサービスの公共交通があれば良いという意見も出ていた。行政の財源は限りがあるので、それらの優先順位をつけていく必要がある。人口が減少していくことは明らかなので、市としてどのような形でメリハリをつけるか整理してほしい。

- 会長 : ・様々な要望がある中で優先順位を付ける必要があるという意見であった。働き手や免許返納者等各層で要望は異なる中で、何を選択していくかという課題を投げつけられている。人口減少時代であり、人の呼び込みや地域活性化をしないと減少していく。交通で少しでも賑わいのあるまちづくりにつなげていきたい。
- 委員 : ・人口減少の話があったが、市内の外国人は増えている。運転免許を取得する人や車利用者が多く、車庫証明の窓口にも訪れている。
- ・日本に来て交通手段がないため、無免許で運転したり、生活が苦しく車検を受けなかったりする。また、国際免許で運転するが、1年間しか有効でない。
- ・潜在的な需要として外国人がある。5 ページを見ると 1995 年には 546 人だったが、2015 年には 1,334 人となり相当数増えている。意見が出たようにターゲットを絞るなら、免許を自主返納した人があると思う。また、車を運転できない学生の中にはバスに乗ったことが無い人がいるので、体験してもらいバスに乗ろうという気持ちになってもらうのも良いと思う。さらに、外国人もターゲット層になると思う。
- ・アフガニスタンやパキスタン等治安が悪く帰れず、難民申請で日本に残る人も結構いる。移動手段がなく、車を運転している人がいる。公共交通を使ってもらえれば車を運転せずに済む。
- 会長 : ・免許の無い人の中には外国人もいるという視点であった。現時点では、外国人の方は公共交通をあまり利用していないと思うが、検討が必要である。
- 委員 : ・高齢者世帯から、免許証を返納し、年金生活で、車もなく、通院と買物に困っているという意見が出ている。今後高齢者は増え、免許返納者も増えると思う。高齢者向けの通院と買物の交通手段を考えてほしい。
- ・現在デマンドタクシーらくらくの行き先は西南医療センター病院ときぬ医師会病院だけである。通院の多い病院を調べて、使いやすくしてほしい。
- 会長 : ・今年からデマンドタクシーらくらく市外便を運行している。きぬ医師会病院は利用者数が伸び悩んでいる。
- ・通院先は資料 1 別冊のアンケート結果 19 ページに載っている。市内の病院はデマンドタクシーらくらくの市内便で行ける。市外の病院について、西南医療センター病院が多い。高齢者向けの施策は考えていく必要がある。
- ・計画について、現在運行している公共交通への色々な要望に紐づいて、今まで同様に取り組むことになっている。特に、アンケート結果や利用状況を踏まえて方向性を定めていく。限られた財源の中で運行していくため、高齢者が増え、免許返納者が増えることが想定されている中で、どこまで行政が取り組むべきか検討する必要がある。
- 委員 : ・コミュニティバスの乗客が少ないことが指摘されている。コミュニティバスをデマンドタクシーに移行し、スクールバスや工業団地への通勤バス等の目的を単一にしたバスにするという方向性は考えていないか。コミュニティバスの別

の使い方も視野に入れて考えるべきである。

事務局 : ・コミュニティバスを他の手段に使うという意見であった。今ある資源を効果的に使うことについては当然検討すべきだと思う。

・計画の中では、「バス交通を軸とするまちづくり」を目指すべき姿とした。昨年度策定した立地適正化計画の中で、人口を集約する場所の要件にバス交通の運行頻度がある。市内には鉄道駅がなく、バス交通が無いと近隣市町への移動ができなくなる。バス交通をしっかりと支え、バス交通を軸として、コミュニティバスやデマンドタクシーといった他の公共交通をつなげるイメージである。

・スクールバスを貸切事業でやるべきという議論もある。一方、全国ではスクールバスを日中に乗合として活用している事例もある。バスを軸としてその他の移動手段を確保していくことについて、次回具体的な施策を検討する中で皆様の意見を頂戴したい。皆様の意見を精査し、修正し次回お示ししたい。

委員 : ・26 ページのコミュニティバスの利用者数について、H19 年から H20 年にかけて大きく伸びている理由が分かると良い。

事務局 : ・小学校の通学利用として 2 ルート運行している。児童数の影響が大きい。

・H18 年 11 月から運行開始し、H21 年からは 5 ルートとし、全ルート 1 日 4 便ずつ運行していた。H24 年から今のルートで運行している。

事務局 : ・H19 年から H20 年にかけての利用者数の急増の要因は、小学校の登校に合わせた七郷ルートと七重ルートの追加と、利用促進として無料乗車券の配布を実施した影響が大きい。

委員 : ・ルート変更の影響が大きい。当初逆井地区まで運行していたが、利用の多いところへ集約し、通学利用に対応させた。現在も七重小学校と七郷小学校の通学利用に対応させている。

会長 : ・コミュニティバスは H18 年当初からあまり乗っていないという課題があり、利用の多いところへルートを変えてきたという経緯がある。効率を高め、逆井地区へのルートを減らすこと等をしているため、全体の利用者数は減っている。児童の通学利用として走るルートのコミュニティバスと、教育委員会で走らせているスクールバスがある。

・具体的な運行内容については再度議論していただくことになるが、計画の大まかな内容についてはこの案で承認としてよろしいか。

全員 : ・異議なし。

会長 : ・承認された。

(3) 審議第 2 号 直行坂東号の中間評価について

委員 : ・市職員は東京出張などの際に直行坂東号や急行坂東号を使うことはあるのか。

事務局 : ・使っている。

委員 : ・補助金を出しているなので、ぜひ使ってほしい。

・守谷駅の直行坂東号と急行坂東号の乗り場はどこにあるのか。表示を見つけれ

れなかった。

- 事務局 : ・1 番乗り場と 3 番乗り場である。岩井バスターミナル行きの表示を出している。
- 会長 : ・市職員に PR して直行坂東号や急行坂東号を利用するようにはしている。率先して市職員が乗ることは大事だと思う。
- 委員 : ・今いただいた意見を全職員に伝える。
- 委員 : ・守谷駅の 1 番乗り場が急行坂東号、3 番乗り場が直行坂東号である。急行坂東号を補う形で直行坂東号を朝 1 便、夜 2 便運行している。直行坂東号は 3 便しか運行していないと捉えられているところもあるので、急行坂東号と合わせて利用促進に取り組んでいきたい。
- 委員 : ・予算の範囲内で、定期券等の乗車券への補助はできないか。常総市にも補助金を出してもらって、常総市もカバーしてはどうか。坂東市から大学に通っている人もいるが、便数が少なかったり値段が高かったりすることからバスは嫌だという意見を聞く。手間はかかるが割引施策で利用者を増やし、運賃収入を上げ、補助金を減らしてはどうか。
- 会長 : ・急行坂東号を補う形で、市で直行坂東号を運行している。
- 委員 : ・急行坂東号と直行坂東号の所要時間の差はどれくらいか。
- 委員 : ・10 分くらいである。
- 委員 : ・お勤めの方は利用しないと思う。東京行き的高速バスも帰りは利用するが、時間がかかるから上りは利用されなかった。住宅団地から守谷駅までバスを利用している人もいる。それを見るとバス利用の方法が分かると思う。
- 委員 : ・直行坂東号の利用者が少ないのであれば、直行坂東号をなくして水海道駅に行く人の移動手段を確保するという考えもある。
- 会長 : ・関東鉄道には時間や採算制等の中で急行坂東号を運行してもらっている。朝と夜に運行便数を補うため、急行坂東号とは異なる神田山を通るルートで、停まるのは坂東市だけとして直行坂東号を運行している。
- 委員 : ・以前東京行き的高速バスが神田山経由で運行されていたが廃止となり、神田山方面の人も利用できるように現在のルートとなっている。急行坂東号と直行坂東号を合わせて検討すべき時が来ている。
- 会長 : ・なるべく多くの人に使ってもらいたい。利用が増えれば運賃収入も増えるので、議論を進めていく必要がある。
- 委員 : ・来年度については、運行を継続していきたいという考えである。
- 委員 : ・高校生が岩井のまちなかから守谷駅まで行くのにいくらかかるのか。
- 委員 : ・原付で守谷駅まで通っている高校生がいるが、危ないのでバスを使ってもらいたい。料金が高いから利用しないのであれば学割のような割引があると良い。交通安全の面からの意見である。
- 事務局 : ・アンケートでは高校生の保護者からの意見も頂いている。守谷駅から岩井まで 740 円、IC 利用で 734 円である。原口までは 630 円、IC 利用で 629 円である。往復だと 1,500 円近くかかり、子どものお小遣いで行くのは大変という意見を

頂いた。通学定期的場合は割引となる。

- ・最近では岩井バスターミナルから守谷方向に通っていると思われる高校生の自転車も見受けられる。

委員 : ・守谷駅でバスに乗り遅れた場合、守谷駅から岩井までタクシーに乗ると 7,000 円くらいかかる。水海道駅まで電車に乗り、水海道駅からタクシーに乗れば安くなる。

会長 : ・岩井から守谷駅まで 20km くらいあるので、タクシーだと 7,000 円くらいかかる。

- ・直行坂東号の運行経費は約 1,000 万円かけている。利用者は少し増えてきているが、まだまだである。ルートの特も含めてこれからも整理していく必要がある。市の活性化や人口減少を食い止めるための手段の一つとして、常に評価して見直し、PDCA サイクルで進めていく。今年は試験的に減便して運行し、少し利用者数が上向いてきたものの今後も検討する余地がある。

- ・来年度も引き続き運行していくということによろしいか。

全員 : ・異議なし。

会長 : ・承認された。

(4) 審議第3号 市外デマンドタクシー実証運行の中間評価について

会長 : ・市外デマンドタクシー実証運行の中間評価について説明があった。

- ・きぬ医師会病院は利用者数が伸びていない。通院者も西南医療センター病院よりは少ない。しかし、9月には伸びてきている。

- ・周知の徹底も順次図っている。また、免許返納者への優遇措置としてコミュニティバスとデマンドタクシー等の助成をするため、来年度に向けて準備している。そのため、さらに利用者が伸びていくと想定しているとのことである。免許返納者が使えるように有効な運行を検討する必要がある。

委員 : ・きぬ医師会病院行きと西南医療センター病院行きのそれぞれの利用者の地区はわかるか。行き先ごとの居住地の傾向はあるか。

事務局 : ・利用状況を分析し、可能であれば次回お示ししたい。

委員 : ・車両の乗車人員にはまだ余裕があるか。いっぱいに乗れないこともあるか。

事務局 : ・市外便については十分に余裕がある。時間についても想定時間内に戻ってきている。予約がなく運行しない日もある。

委員 : ・総合守谷第一病院へは行ってもらえないかという声がある。

委員 : ・西南医療センター病院へ坂東市から通院している方は、140 人/日であり、きぬ医師会病院は 1/3 以下である。通院者数が少ないことからこのような結果になっていると考えられる。

- ・毎日、登録者が来ている。今後利用者数が伸びる可能性を感じている。

会長 : ・まだ登録していない方もいる。イベントなどの機会も含めて PR に努めていき、知らない人に広めていきたい。

・実証運行を続けていくということによろしいか。

全員 : ・異議なし。

会長 : ・承認された。

(5) その他

事務局 : ・次回の会議は12月20日(金)午後2時から、坂東市役所3階大会議室での開催を予定している。

令和元年度 第2回坂東市地域公共交通会議 出席者名簿

(順不同・敬称略)

区分	所属等	役職等	氏名	備考	
1	関東鉄道株式会社	常務取締役兼自動車部長	武藤 成一	代理：自動車部営業課 課長補佐 塩入 貴光	
2	(1) 茨城急行自動車株式会社	総務部長	伊藤 友己		
3	株式会社昭和観光自動車	代表取締役社長	小林 昭仁		
4	(2) 中山観光自動車株式会社	代表取締役	中山 茂		
5	(3) 有限会社ナガツマ交通	代表取締役	長妻 凡夫	代理：(株)ナガツマ観光バス 代表取締役 長妻 重典	
6	(4) 一般社団法人茨城県ハイヤー・タクシー協会	専務理事	服部 透	代理：ケア輸送委員長 荒井 忍	
7	(5) 一般社団法人茨城県バス協会	専務理事	澤島 政志	欠席	
8	(6) 坂東市商工会	会長	上坂 理一	欠席	
9		岩井モール商店街連合会	会長	関根 儀一	
10		坂東市商工会沓掛支部	支部長	猪瀬 忠男	
11		坂東市区長会連合会	会長	中村 洋一	
12		坂東市シニアクラブ連合会	会長	中山 邦志	欠席
13		ぼんどう市女性団体協議会	会長	服部 恵子	
14		一般社団法人坂東青年会議所	理事長	吉田 伸雄	
15		境地区交通安全協会坂東支部	副支部長	木村 藤一	
16		坂東市交通安全母の会	会長	森平 道子	
17		坂東市PTA連絡協議会	会長	石塚 孝	
18		坂東市社会福祉協議会	事務局長	鈴木 康夫	欠席
19	坂東市民生委員児童委員協議会	岩井地区民生委員児童委員協議会会長	花島 美津子		
20	(7) 国土交通省関東運輸局茨城運輸支局	首席運輸企画専門官	皆川 誠司	代理：運輸企画専門官 高見 耕平	
21	(8) 関東鉄道株式会社労働組合	執行委員	谷田部 正利		
22	(9) 筑波大学システム情報系	教授	鈴木 勉	欠席（オブザーバー：学生2名）	
23		茨城県境工事事務所道路管理課	課長	東ヶ崎 祐二	欠席
24		茨城県境警察署	交通課長	大郷 秀樹	
25	(10) 茨城県政策企画部交通局交通政策課	課長	久保田 博文	代理：課長補佐 岡崎 一裕 随員：主事 松田 伸浩	
26	(12) 医療法人社団仁二会 高橋医院	院長	許斐 康司	欠席	
27		つくばハイテクパークいわい連絡協議会	会長	末利 忠	株式会社田中食品興業所 つくば工場 工場長
28		坂東まちづくり株式会社	代表取締役	圓崎 一也	欠席
29	会長 坂東市	副市長	鈴木 清		
30	(11) 坂東市	企画部長	金久保 吉之		